



東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 141 April. 1. 2015

発行 公益社団法人
日本山岳会東海支部

〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMCビル

電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924

郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」

銀行口座 三菱東京UFJ銀行 覚王山支店

普通1222073 「日本山岳会東海支部」

編集 星 一男

印刷 (株) 浅井隆文社



杉田 博氏の作品

「農家・ヒマラヤ」(水彩)
ル・サロンに入選(3P 関係記事)

目次

○平成27年新年懇親会報告	佐野忠則	1	○支部友コーナー	酒井 広	8
○杉田 博氏「ル・サロン」に入選	石井 仁	3	○同好会コーナー	山中光子	
○山田 弘氏「障害者自立更生等 厚生労働大臣表彰」受賞	加藤守彦	3	○海外トレッキング報告	星 一男	10
○東海支部関係で遭難事故多発!!	野呂邦彦	4	ニュージーランド/ハルラ山	前田隆久	11
○「インドヒマラヤ」 拡大編集会議開催	沖 允人	5	○追悼 高木泰夫先生	西山秀夫	12
○隋想・御嶽噴火に思う	大口瑛司	6	○委員会報告		13
○第3回夏山フェスタ	毛利邦男	8	青年部	梶原昌巳	
			登山教室委員会	鈴木慎吾	
			○会務報告	毛利邦男	14
			○ルーム日誌・会員異動	酒井 広	16
			○INFORMATION		18
			○編集後記	星 一男	18

平成27年新年懇親会報告

総務委員長 佐野忠則

恒例の新年懇親会が1月17日(土)17時から東海支部ルーム隣の高砂殿本店で行われた。

支部長挨拶



挨拶 小川支部長

新年懇親会は最初に小川支部長から以下の挨拶があった。

先月の支部長会議で森会長及び執行部から会員の増強、若返りの施策の中で、ユースクラブや支部活動において若者対象の活動が充実して来ているが、会費収入は減少し続けており財政状況は厳しい状況にある。今後、財政状況改善のため支部の協力を得て対応を検討していきたい。との発言があり、支部としても従来の活動を充実させる中で、会員増強などの対応を図っていきたい。

続いて外部から表彰された支部員の紹介があった。

- ・山田弘支部員が昨年の12月5日に「障害者自立更生等厚生労働大臣表彰」を受賞された。受賞後皇居で天皇皇后両陛下に拝謁され、お言葉を賜った。
- ・今年米寿を迎える杉田博支部員は昨年、水彩画「農家・ヒマラヤ」25号を世界最古・最大の公募展「ル・サロン225回展」に出展し、見事入選された。

講演会「世界の山からニッポンの山を見る」 谷口けい 氏

(講演者紹介)

講演者の谷口けいさんについて、本人を良くご存じの尾上昇東海支部常任評議員から谷口さんは日本における屈指の女性登山家であ



講演をする谷口けい氏

り、世界で最も高い評価を得ている女性登山家の一人などユーモアを交えた内容で紹介があった。

1972年和歌山市出身、2001年アラスカ マッキンリー登頂、以降ヒマラヤ、アラスカ等での登山活動を続ける。2008年には、カメット峰の南東壁に新ルートを刻み女性として世界初のピオレドール賞を受賞。また2014年には、ピオレドール・アジアを受賞。

(講演内容)

今日の話は「世界の山からニッポンの山を見る」になっているが、支部からの要請もあり若い人と一緒にヒマラヤ登山についても映像を交えてお話ししたい。私は和歌山出身の千葉育ちで回りは海ばかりであった。山に興味はあったが行くことは出来なかった。そのため、山に関する本を読む中で植村直己さんのことを読み憧れて彼の行動を見ていた。小学6年の時、彼の遭難があり大人になったら、マッキンリーに登りたいと思った。

明治大学入学後、山岳部に入ろうと部室を訪問したが、雰囲気になじまず、自転車部に入り自転車で日本と世界を旅して、山があると登っていた。卒業後、京葉山岳会に入会し、そこで先輩に誘われ、マッキンリーに登りに行った。1ヶ月分の食料と燃料持参が国立公園のきまりでいろいろ工夫して持って行った。当地域は風が強く苦労したが植村さんも風にやられたと云われている。ベースキャンプにいるとき、先輩の体調が悪くなり何日も停滞

していたが、他の登山者が高山病だと教えてくれ、急遽下ることとなり、1000mほど下って静養したら5日間で回復し、改めて登頂することができた。初めての本格的な山であったが、このトラブルで自分で判断せざるを得なくなり、いろいろ学ぶことができた。

世界にはいろいろ山があり、次はヒマラヤに挑戦することになった。2004年パキスタン・ゴールドデンピーク、ライラピークに登頂した。2005年パキスタンのムスターグアタに登ったが、日本なら雪庇で歩けないところを登る体験をした。インドとの国境を歩いて越えシブリンに初登頂した。2006年マナスル清掃登山に参加し、ウンコ隊長を引き受けた。シェルパ族は排泄物を触らないので苦労したが、最後は清掃に協力してくれた。マナスルではネパールの国旗も掲げ登頂を祝福しあった。

2007年には中国側からチョモランマに登頂したが、2008年の北京オリンピックで聖火を頂上を経由して運ぶと云う事で登山禁止となり、以降中国側からは登れないので、最後のチャンスとなった。

2008年にはインド・カメット峰(7756m)南東壁で新ルートを開拓したことにより、ピオレ・ドール賞を受賞することができた。この賞はアルパインスタイルと呼ばれる少人数、最低限の装備での登頂を重視し、テクニクやルートの妥当性などのクリエイティブな登山であることのほか、環境の尊重なども評価の対象となっている。何故、自分が選ばれたのか、自分の登山を見つめ直す機会になった。

2014年4月から6月までの38日間かけ、マッキンリー南麓のルース氷河最上流部で4本の新しい登攀ルートを開拓したことで、ピオレドール・アジア賞を受賞した。その時は氷河の中に貯蔵庫を作って、食料を1ヶ月持たせることや誰にも会う事がなく自分たちと自然が、純粹に向き合うことで自分たちのラインに向かうことができたと思うし、美しくかつ厳しい自然の姿を受け止めることができたと思う。大変細かいことであるが、長期の登山活動には、携帯ミシンを持っていくが、装備のほころびを治すなど大いに役立つと思っている。

昨年9月ネパール・ヒマラヤで、JAC学生部女子登山隊4人が、ムスタン山群のマンセイル

峰の初登頂に成功した。この4人は1年前の冬に国立登山研修所で知り合った仲間であり、ムスタン山群を選んだのは、昨年5月にネパール・ヒマラヤで約100座が解禁され、マンセイルを含む3座の許可をJACが取得し、学生部女子隊が目指すこととなった。ただ、経験が不足しているのは明らかなので、登山研修所で指導した私がアドバイザーとして同行することとなった。

人跡未踏のムスタン山群と生きたチベット仏教が残る地域には個人的にも興味があった。現地では、技術研修やヒマラヤ登山の基礎に加え、明日歩くところを地図でイメージしながら計画を立てる等の指導をした。4000mの峠を越えるあたりから隊員の一人が体調が芳しくなく、体温は平常に近いようだが、脈拍数が多いので、衛星電話で日本に確認をしたものの、良く分からないこともあり、ヘリでカトマンズに戻すこととなった。

静養の後、ベースキャンプには戻ったが、本人は登頂は断念した。一方、本隊にはローマンタンより北の谷はリエゾン・オフィサーが同行した。僧侶でもあるので祈祷もやってくれた。最後の集落を過ぎるとキャンプ地の選定に際して、氷河の白濁した水を避けて水場を探すのに苦労した。天候については衛星電話を通じての猪熊予報が大いに役立った。アタック当日はC2出発時に青空であったが途中から吹雪になり、苦労はしたものの6200mの登頂は出来た。下山は激しい吹雪の中、懸垂下降で下りはじめ、ホワイトアウトの中、キャンプに戻った。その日以降は深い雪のため残り2座の登頂は断念した。学生たちは自分でも良く分からないうちに登頂できたと思うが、大いに得るものはあったようだ。

ヒマラヤやアラスカの山々は美しいが、日本の屋久島の深い森、東北の飯豊の山々などを登ると全く違う素晴らしさを感じる。これからもどっちも登ることになると思う。

懇親会

講演会の終了後会場を変えて懇親会に移った。杉田支部員の音頭で例年のように九州在住の石原國利支部員から送られた黒田武士で乾杯。谷口けいさんも交え和気藹々の雰囲気の中で懇親会が進められ会場は大いに盛り上がったところで閉会となった。

杉田 博さんの「農家・ヒマラヤ」ル・サロンに入選

石井 仁



フランスで330余年の伝統を持つ世界最古最大の国際公募展「ル・サロン」(フランス芸術家協会主催)に

「ル・サロン」に入選された杉田氏(東海支部評議員の杉田 博さんの山の絵が入選、2014年11月25日～30日にパリの国立グラン・パレ美術館で開催された第225回展に展示されました。作品は「農家・ヒマラヤ」と題する20号の水彩画で、ネパールのゴラパニ峠で見つけた風景と聞きました。

鉄平石で屋根を葺いた百姓屋を前景とし、アンナプルナ連山を背景に、右辺に尻尾をせり上げたマチャプチャレを抱かえ込んだ風景画で

す。1965年ネパールのトルポ地方のダウラギリII峰に遠征した時の思い出が元になっている、とのことです。ル・サロンの入選率は1/500から1/800と言われていて毎年世界中から何万点もの応募を集めています。また、110年の歴史ある日本山岳会の中でもル・サロン入選者はこれまでになく、杉田 博さんの初入選はまさしく快挙と言えるのではないのでしょうか。

ル・サロンの歴史は、1667年太陽王ルイ14世の時代まで遡ります。統治下のフランスに最初の芸術運動がアカデミーの人を中心に興り、次いでパレ・ロワイヤルへ進展し、1885年ナポレオン3世が国際公募展に発展させました。この公募展は、ドラクロア、クールベ、ミレー、マネ、ピサロ、ルノワール、コロー、ルオー、ドガ、ロダンなどを輩出し、日本からは、明治16年に五姓田義松が初入選、藤雅三、黒田清輝、和田英作が続きました。

受賞作品は表紙に掲載してあります。

会員の広場

山田 弘さん「障害者自立更生等厚生労働大臣表彰」受賞

加藤守彦



山田弘さんは、昨年12月5日に、「障害者自立更生等厚生労働大臣表彰」を受賞され、受賞後、皇居にて、天皇・皇后両陛下に拝謁するという栄誉を受けられました。この厚生労働大臣表彰は、「自らの障害を克服して自立更生をし、他の障害者の模範になる方」を表彰するものです。

山田さんは、福祉専門学校講師をされる傍ら、日本山岳会東海支部に所属して、山歩きを楽しまれ、ボランティア委員として、視覚障害者支援登山「ブラインド登山」を担当されています。このほか、駅やターミナル、町の施設を調査し、視覚障害者に言葉によるマップを提供する「ボイスナビゲーター」の代表、視覚障害者

で構成するラテンバンド「アミー」の事務局長でもあります。演奏は、アルトサックスを担当されています。更に、カラオケも得意で各種のコンクールで受賞しています。また競技ダンス、タンデム自転車旅行など、多彩な趣味をお持ちです。

厚生労働大臣賞は、公的な団体に所属している功労のあった方が表彰されるのが主流の中で、全くの一市民が表彰されるのは珍しいようです。

心から、受賞に拍手を送りたいと思います。



皇居にて 前列左から7人目が山田さんその後ろがご夫人

緊急アピール

東海支部関係で遭難事故多発！！

遭難対策委員長 野呂邦彦

新年を迎えてから、支部の遭難対策委員会の出動する遭難が数件発生している。支部員諸氏にその報告と合わせて万に備えた「登山届」の重要性を認識してもらいたい。

北ア 五竜岳 バックカントリーでの遭難事故

去る2月19日、北ア五竜岳でJAC会員3人がバックカントリーに出かけ、行方不明の第1報が入る。遭難者の中の一名は 東海支部の池田支部員であった。急遽山田副支部長、大島支部員が現地に向かうが、悪天候のため危険なので、警察から戻るように指示があり引き返す。

2月20日 山田、大島 現地に向かう。夜、本部に合流。

2月21日 長野県警のヘリで捜索するも発見できず。山田、大島は家族を同行して八方尾根からの視察に登る。悪天候でリフトが止まり歩いて登るが手がかりがない。

2月24日 野呂、高橋、藤寄、小澤、五藤、三宅、塩崎（鈴鹿アルパインクラブ）で現地へ向かう。

2月25日 白馬山岳遭難センターに行き挨拶。不明場所は五竜遠見尾根の村尾根と断定して白馬47のゴンドラを使い、地蔵の頭までビーコンで捜索し、家族もゴンドラ終点まで同行。ビーコンの電池残量から本日が限度であった。残念であるが救助活動は断念して一般の捜索活動に切り替えることになった。



五竜遠見村尾根

鈴鹿竜ヶ岳で名古屋の男性不明

2月19日、三重岳連の救助隊より竜ヶ岳で男性行方不明の連絡があり、捜索隊の後方支援で野呂、三宅が参加した。3月1日現在も行方不明のため捜索継続中である。

藤内滝付近で男性が滑落死亡

2月15日 藤内滝付近で男性が滑落し、たまたま居合わせた東海支部の青年部が救助活動を行う。高橋副支部長が蘇生術を長時間試みたが駄目であった。遭難者を保温のため包んだ青年部員のダウンジャケットが血で真赤に染まっていた。悲惨な事故である。

その他

その他、2月には綿向山で2件の事故が起きている。一つは滑落でもう一件は道迷いである。幸いなことに2件とも死亡事故には至らず、無事救助されている。滋賀県警が対応。

以上のように我々の身近で遭難事故が多発している。万に備えて個人山行も含めて支部の遭難対策委員会宛に登山届を出して欲しい。

遭難事故は初動捜索が最も重要である。登山届が提出されているかどうかで生死を分けるケースがよくある。登山届の重要性を今一度認識してほしい。

因みに支部の登山届の電話番号は次の通りである。

東海支部の登山届番号は

080-2632-3776

担当 野呂 邦彦



スキー場付近を捜索

日本山岳会 110 周年記念出版「インド・ヒマラヤ」 拡大編集会議を開催

編集長 沖 允人

日本山岳会の110周年記念事業の一つとして、海外の山々についての記念出版が企画された。そのうちの 하나가東海支部の担当する「インド・ヒマラヤ」である。昨年9月に編集委員会が発足し、これまでのインド・ヒマラヤ登山の記録および地域研究をまとめた出版物の編集作業を始めている。すでに相当の原稿が届いているところから、3月21日（土）東海支部ルームにて、拡大編集会議を執筆者と編集委員を交え合計11名の参加を得て開催した。

拡大編集委員会報告

沖編集長より企画から現在までの経過報告と編集方針について説明を行った。その後内容説明に移り、概念図の承認、グラビア写真の回覧と内諾、口絵の紹介と検討、本文中の写真と概念図の紹介等の説明と討議を行った。

夕刻からは、会場を移して懇親会を開催、より良い本の完成を誓った。



稲田執筆委員(左)と沖委員長(右)



活発な議論が交わされた拡大編集会議



寺沢編集委員(左)と鈴木副委員長(右)

出版の概要

本の名称：インド・ヒマラヤ

目的：インド・ヒマラヤ全域を総括して、一冊の本にまとめる。将来のインド・ヒマラヤ登山の道標となることを意図し、各山城の注目された日本人による登山・登攀記録や未踏峰・未踏の壁についても可能な限り、収録・解説することとする。いわば、インド・ヒマラヤの全てを顕す内容であり、日本山岳会の110周年を記念して出版する意義が大いにあると考える。

執筆は国内外のインド・ヒマラヤのエキスパートおよそ30名の諸氏に依頼している。

出版予定日：本年11月 部数1000部（A5版、400ページ）

内容：目次は和文と英文併記 インド・ヒマラヤ概説・全体図/300座・概念図（A5・28）巻末論文、付表等

編集委員

Harish Kapadia(顧問)

沖 允人(編集長)

阪本公一(副編集長AACK) 鈴木常夫(副編集長) 星 一男(副編集長)

東海支部関係編集委員

小川 務支部長 杉田 博 村中征也

安藤忠夫

御嶽の噴火に思う

評議員 大口瑛司

御嶽山がまた噴火して今度は大変な数の犠牲者を出してしまった。またと言うのは私の記憶では今回で3回目で小さいのも含めると4回と言われているようである。

御嶽の噴火と言えば強く印象に残っていることがある。古いことで曖昧な点もあるが、たしか支部の企画で子供たちを2泊3日のサバイバル山行に連れて行ったことがある。私は参加しなかったが木曾の御嶽側から入り、小秀山に連なる山々の峠多分白巢峠であろうが、その峠を越して東濃側の渡合温泉に至るコースであった。サバイバルと言うから当然イワナを釣って食料にするのも目玉の一つでもあったと思う。当時その辺りはイワナがよく釣れるようだった。その頃の話である。中世古隆司さんが、ルームで「オレが誰でもイワナを釣らしてやる。釣れなかったら栄を逆立ちして歩いてやる！」と大見得を切った。当時でもそんなに簡単にイワナが釣れないことは誰でも知っている。セコさんがそこまで言うならということになって10人ほどで出かけることになった。

付知から入って渡合温泉を通り、当時はゲートの無かった長い林道を白巢峠の真下まで車で入って終点の広場でテントを張った。

早速釣り支度をして白巢峠に立つと、どっしりとした霊峰御嶽が正面に見えて、かなり山奥へ来たことを実感した。期待して峠から御嶽側に少し下り、それぞれが沢に入った。私も多少の経験があり、セコさんの言葉を信じて2時間ほど粘ったがさっぱり釣れない。諦めて切り上げて来たら他の人も同様であった。ただ小川さん(現支部長)だけが苦笑いしながら小さなのを2尾、それも1尾は尻尾に掛かったのを持って上がってきた。釣果は全部でそれだけだった。セコさんは「おかしい、おかしい」と言いながら、しきりにクビを捻っていた。翌日も釣果ゼロである。

丁度その一週間後、御嶽山でM6.8の地震が発生(昭和59年9月14日)。山頂の南斜面で発生した山崩れは約10km流下して王滝村までも達した。死者29名。

ナマズではないが野生動物は地震や噴火な



イワナ釣りに同行した面々

左より 石岡、徳島、小川(繁)、大口、中世古、
左下 尾上の各氏(撮影 小川(務)氏)

どの自然界の異常を予知する能力に優れていると言われる。だからイワナも怯えて食餌活動をしなかったのが釣れなかった原因なのだとセコさんは宣った。

有史以来と言われた御嶽山噴火(昭和54年10月28日)から、わずか35年ほどで3回(小さいものを含めると4回)も噴火するのは頻度も高く御嶽山は、危険な火山の部類に入るのではないか。それまでの噴火は登山者のいないタイミングか、規模が小さかったからで、危険な状態であることに変わりはない。今まで犠牲者が出なかった幸運を大丈夫と勘違いしてきたのではないか。今回の噴火は晴天で紅葉真っ盛り、一年で最も登山客が多い時期とお昼時が重なり、最悪のタイミングであった。

登山の事故として死亡と行方不明者と合わせ60名余りと怪我をした人を含めると余りに



林道終点でキャンプ(白巢峠直下)

も多すぎる。山での遭難事故は雪崩、滑落、道迷いなど、登山者の側に責任があることが多い。しかし今回の登山者にはまったく落ち度がなく、犠牲者の中に小さなお子さんまでいる事故は未だかつてない。どれほど怖かっただろう、苦しかっただろうと思うと心底、心が痛む。

私達人間は野生動物と違って、知能の力で危険予知をカバーして自然界を生き延びてきた特異な生き物であると言える。そのため人間は危険予知能力が退化し、火山性微振動があっても科学技術の助けを借りなければ危険を察知することが出来ない。今回の御嶽も、3回も噴火している山にもかかわらず、規制も警告も無ければ人間は何の心配もなく安全だと思って登山する。

事故後の気象庁噴火予知連絡会の会見で「微振動はあったが噴火するとは考えにくく、レベル1とした」との発表があった。続けて「今の噴火予知はこの程度のものだ」との噴火予知連絡会の会長の発言には正直驚いた。

噴火予知はこの程度であるならば「噴火予知は出来ない」と同じである。「科学とは統計である」と聞いたことがある。御嶽山の少ない噴火データでは噴火予知が出来ないことは理解できる。だが最初から「噴火予知は出来ない」のにどうして人命に関わる危険度をランク付けし、活火山を管轄する自治体に対し、あたかも噴火予知が出来るかのような情報を出してきたか極めて疑問が残る。現にまだ大丈夫の「レベル1」のままで噴火し、60余名の犠牲者が出たのである。後から「噴火予知はこの程度のもので済まされては、安心して登った犠牲者は浮かばれない。また後始末に追われる関係機関にとっても迷惑千万極まりない話であると思う。

最初の昭和54年の噴火から今回まで3回も噴火があった山である。地震と違って噴火の危険は火口周辺に近づかなければある程度の災害は避けることが出来る。その後シェルターのことを耳にしたが、これなど登山が出来るようになってからのことで、それには科学的知見に基づいて安全が確認されなければならない。気の遠くなるような先の話だと思う。例えシェルターがあっても効果は極めて限定的で、安全の免罪符として規制解除の口実に使われることを危惧する。

昭和59年9月の地震では、伝上川上部で山体崩壊とまで言われた大規模の地滑りがあった。温泉宿も釣り人も、今でも埋まったままの大災害である。噴火から数年して何事もなければ「これまで安泰であったから、これからも大丈夫だろう」と何の科学的根拠もなく、登山規制を解除するのをいちばん心配する。気持ちとしては分かるが、貴重な財源を使って研究を重ねても尚、現在の科学では噴火予知が出来ない以上、登山規制を続けるしかないのではないか。それが何の落ち度のない60余名の犠牲者に対するせめてものつぐないであると思う。

そのうえで、いくら登山規制をしてもそれを掻い潜って登山をする人はいるだろう。雪山ならばどこからでも登ることができる。止むに止まれぬ登攀意欲を押さえつけることは出来ない。ルール無視を認めるものではないが、全ては自己責任である。今回のようなケースを除いて、登山は自己責任の上に成り立っているものだからである。

御嶽には山スキーで何度も登り、楽しい思い出も多い。八丁ダルミでは風向きによりゴウゴウと蒸気の噴出の音がして、噴火よりも亜硫酸ガスを心配したこともあった。御嶽山には今まで何事もなかった幸運を心から感謝したい。

山田利行氏 講演会のご案内

海外登山委員会/青年部/
東海学生山岳連盟

東海支部青年部のホープでカナダ在住の山田利行君が今度一時帰国しました。同君をお招きして、下記の通りカナダの山々の魅力を語ってもらう講演会を企画しました。是非多数の支部関係各位のご参加を賜りますよう、ご案内申し上げます。

記

日時：平成27年4月14日(火) 午後7時～9時

会場：OMCビル4F 講堂

講師：山田利行氏

演題：ヤマダ トシ カナダの山を語る

— その魅力と登山 —

第3回夏山フェスタ

毛利邦男

一昨年から始まった「夏山フェスタ」が我が東海支部の全面的バックアップで今年も開催されます。登山愛好家が増えていることに加え、国民の祝日「山の日」が8月11日に決定、2016年から施行されることになったこともあり昨年は6600人という沢山の来場者を数えました。若年層から中高年まで幅広い登山愛好家に、山の恵みや安全登山などについて考えてもらうのを目的に開催されます。特に今回は、日本山岳会110周年記念フォーラムとして、昨年9月の御嶽山の噴火や火山をテーマとしたフォーラムも予定されています。

その他予定されているフォーラム、講演会、セミナーやイベントなどは下記のとおりです。

- ①フォーラム：「山の日」制定記念として「山や森の自然の恵み」をテーマとしたフォーラム（鈴木英敬三重県知事他を予定）
- ②トークショー：8000m峰全14座完全登頂した竹内洋岳さんと山系イラストレーターの鈴木みきさんの対談とイモトアヤコさんの世界中の高峰への挑戦のガイドとして有名な角谷道弘さんのトークショー
- ③山に関する各種セミナー：安全登山、高山植物、山の天気、山岳写真の撮り方、登山用品の使い方等
- ④山小屋・山岳関連団体・自治体関係者によ



第2回夏山フェスタ パネルディスカッション
の相談コーナー

- ⑤ブースでの登山用品の新商品PR・展示・販売
- ⑥展示等：山岳写真展、ロングトレイルコーナー、スライド上映会、山のよろず相談コーナー（東海支部担当）など
皆様お誘いあわせの上お出かけ下さい。
開催日時・会場は下記の通り

日時：6月20日（土）午前10時～午後6時30分

6月21日（日）午前9時～午後5時

会場：名古屋駅前「ウインクあいち」（愛知県産業労働センター）7階および8階

主催：夏山フェスタ実行委員会

特別協力：（公社）日本山岳会東海支部

入場：無料

詳細は検索エンジンで「夏山フェスタ」と入力して検索して下さい。

支部友コーナー

◆支部友委員会山行計画（平成27年4月～9月分）

平成27年

- 4月18日（土）中濃の納古山（633m）
☆ リーダー：酒井 広 締切：3月29日
- 4月19日（日）東濃の中山道・大湫宿
☆ リーダー：松本陽子 締切：3月30日
- 4月20日（土）鈴鹿の御在所岳（1,212m）
☆ リーダー：伊藤康信 締切：3月31日
- 5月1日（金）若狭の三十三間山（842m）
☆ リーダー：酒井 広 締切：4月11日

5月10日（日）鈴鹿の霊仙山（1094m）

☆☆ リーダー：金谷正起 締切：4月20日

5月17日（日）愛発山地の赤坂山（824m）

☆ リーダー：榊 将美 締切：4月27日

5月25日（月）鈴鹿の鎌ヶ岳（1,161m）

☆☆ リーダー：伊藤康信 締切：5月5日

6月6日（土）比良山系の大谷山（814m）

☆ リーダー：酒井 広 締切：5月17日

6月14日（日）越美山地の高賀山（1,224m）

☆☆ リーダー：榊 将美 締切：5月25日

6月15日(月)木曾の富士見台(1,739m)
☆ リーダー：伊藤康信 締切：5月26日
6月27日(土)湖北の山本山(324m)～
賤ヶ岳(421m)
☆ リーダー：川北一博 締切：6月7日

7月5日(日)～8日(水)夏山山行
池巡りとスケッチ山行
☆☆ 北八ヶ岳・蓼科山(2,530m)～
北横岳(2,480m)～にゅう(2,352m)
リーダー：伊藤康信 締切：6月15日

7月11日(土)～12日(日)夏山山行
☆☆ 加賀の白山(2,702m)
リーダー：榊 将美 締切：6月21日

7月18日(土)越前の杣山(492m)
☆ リーダー：酒井 広 締切：6月28日

8月7日(金)～8日(日)夏山山行
☆☆ 北アの燕岳(2,763m)～餓鬼岳(2,647m)
リーダー：村瀬恭平 締切：6月15日

8月28日(金)～30日(日)夏山山行
☆☆ 北アの白馬三山(2,932m)
リーダー：尾上 昇 締切：8月10日

8月31日(月)中央アの三ノ沢岳(2,846m)
☆☆ リーダー：伊藤康信 締切：8月11日

9月3日(木)～5日(土)夏山山行
☆☆八ヶ岳の天狗岳(2,640m)、硫黄岳(2,760m)
リーダー：酒井 広 締切：8月14日

9月11日(金)～12日(土)夏山山行
☆☆ 北アの焼岳(2,455m)
リーダー：金谷正起 締切：8月22日

9月28日(月)木曾の南木曾岳(1,679m)
☆☆ リーダー：伊藤康信 締切：9月8日

支部友会員数

平成27年2月現在/52名

◆支部友ミーティングのお知らせ

- ① 第11回『あなたにもできる山登りに便利なパソコンの利用術』
日時：4月8日(水)19:00～
講師：鈴木慎吾氏(支部登山教室委員長)
- ② 第12回『夏山オリエンテーション』
日時：6月10日(水)19:00～
講師：夏山山行リーダー(6コース)

支部友山行の申し込みルール

山行対象者：支部友会員及び支部員

申込み方法

- ・支部友会員は申込締切日までに、各山行リーダーが示す方法で申し込む。
- ・締切日 原則山行日 20 日前まで。(締切日を過ぎての参加空き情報はリーダーに直接問い合わせること)
- ・支部員は申し込み締切日の翌日以降、各山行のリーダーに問い合わせる。
- ・山行の募集人員を超えない範囲で、支部員の参加申し込みを受け付ける。(本年4月からの山行から支部員の参加が認められることになった)

申込先

リーダー連絡先

尾上 昇 電話・FAX：052-832-3878

メール：onoe@onoe.co.jp

酒井 広 電話・FAX：0568-92-6137

メール：hiroshi19540419@na.commufa.jp

伊藤 康信 携帯：090-2577-8137

メール：kobitokaba@mediacat.ne.jp

川北 一博 携帯：090-3956-4123

メール：kawakitakazuhiro@outlook.com

村瀬 恭平 携帯 090-4186-9876

メール：hoshizakari@ezweb.ne.jp

松本 陽子 携帯：090-7859-4031

メール：yo-kom@nifty.com

榊 将美 携帯：090-7237-4410

FAX:052-710-7089

メール：m.sakaki@minds-consulting.jp

金谷 正起 携帯：090-9931-3600

FAX：052-782-5087

メール：kanaya.masaki@rouge.plala.or.jp

個人山行もJAC東海登山届けを!



専用携帯電話(担当 野呂邦彦)

080-2632-3776

同好会紹介コーナー

東海支部員が有意義なクラブライフを享受するための組織として同好会が発足しています。同好会とは、支部の仲間が同好の士と東海支部の事業目的に沿った多様な活動を通じて有意義なクラブライフを享受しようとする集りで、常務委員会への設立報告に基づいて登録された会をいいます。東海支部員・支部友なら誰でも入会自由です。同好会規約及び設立の申込み方法は本年度の支部ガイドに記載してあります。

古道塩の道同好会

山中光子

古道塩の道同好会では以前に愛知・長野県境にある根羽村で、地元の資料等で役場の方に何度もお世話になったことがあるが、久しぶりに根羽を通ったら、「中馬街道柚路峠への道」と記した新しい道案内が掲げてあり、色々尋ねる事により、微力ながら村の観光に貢献できたようだ。同好会が探索する古道は、愛知県から長野県へと続くため、冬季は活動が鈍くならざるを得ないので、地元の方々との交流が主になるが、色々なお話しが聞け、古い写真を拝見したりして、資料にも掲載されていない小さな事を学べる。



古道を研究されている方のお宅で

12月は、阿智村浪合地区で古道を研究されている方のお宅にお邪魔し、古道のため地図には掲載されていない道や歴史を色々教えてもらうことができた。参考にと書籍も貸してもらい、4月の探索例会の時は、地図に無い古道の案内や並行して研究している村史でしか見る事のできない木地師の墓石群の案内をお願いした。

1月は支部新年会と重なったこともあり、今までの探索コースの編集を中心に進めた。

2月の探索例会では、積雪の影響で探索コースが短い事を了承してもらい同じ阿智村浪合地区で実施した。車を降りた途端、地元のお婆さんが話しかけて来て、自宅は昔は馬宿だった

し、博打うちの隠れ部屋も残っているの、帰りに寄るようにと親切に言ってくれた。短い探索を終えると、家の前で待っていてくれ、中を案内してくれた。改装してあるが、柱等の骨組みはそのまま残し、居間と広い台所はむかし馬小屋だった所で、2階の奥には隠れ部屋もあった。人が好きだから、いつでもおいでとの言葉返らう。

スケッチクラブ

村中征也

第1回の作品展—大勢の来館に感謝 !!

第1回の作品展を、2月7日(土)～12(木)に名古屋市中区栄の安藤七宝店ラウンジで開催、支部の皆さん始め、大勢の方に観て頂きました。

2013年7月の発足以来、四季のスケッチ行で、ワイワイガヤガヤと教え合っ腕を磨いて来ました。16名・30点の作品は、個性と山の楽しさが溢れていました。

展覧会の開催には、多少の懸念もありましたが、発表することの必要性を認識し、全員が力を合わせて纏まる喜びを味わいました。会期中に入会申し込みがあり、現在21名となりました。心配ご無用、山好き・ウォーキング好きならば、誰でも教え合っ描けます。

《今後のスケジュール》

4月9日(木) 明治村

8:54 名鉄名古屋駅発→9:30 犬山駅東口集合
村内を自由に描き、桜を楽しむ

5月21日(木)～22日(金) 伊勢・志摩

8:30 地下鉄本郷駅集合→車に分乗して出発
伊勢・志摩の海と風物を描き、海の幸を味わう1泊旅行を楽しむ

会費ゼロで門戸開放、もっと会員を増やしたいので、気軽に声を掛けて下さい。

事務局…村中征也・加藤和子・武内喜代子
代表…杉田博



第1回作品展会場にて

濟州島・ハルラ山トレッキング報告

前田 隆久

おとしの台湾・玉山に続き、近隣国の最高峰登山として、昨年は韓国・ハルラ山に登った。標高こそ1950mだが、利尻岳と同じで島の中央に聳えるハルラ山は、展望に優れ、火山特有の荒々しい景観、すそ野に広がる豊かな森林と見どころの多い山だ

登山期間 2014年10月31日～11月2日

山 域 韓国濟州島、ハルラ山

メンバー 前田 隆久、尾上昇、他12名

行動概要

10月31日 セントレアから、濟州島へ。世界遺産、城山日出岬を見学後、ホテルに入る。

11月01日 ソンパナクコースを登り、クワンウサムコースで下山。ソンパナクコースは、1200mの標高差を、緩やかに登れるように登山道が整備されており、メインのコース。クワンウサムコースは、タムナ溪谷、北壁の勇壮な景色等見どころも多いが、その分急峻なコースだ。両コースとも、下部は落葉樹の森が広がり。美しい紅葉を楽しめた。登山道に宿泊施設がないため日帰り登山が原則で、今回は徒歩時間9時間、19.5kmのトレッキングだった。



頂上につながる王冠岩

11月02日 濟州島観光の後、セントレアへ。山行を終えて

メンバーの休みの関係から、予備日もない2泊3日の山行だったが、登山当日だけ天気に恵まれ、山を楽しむ事が出来た。韓国最高峰であり、世界遺産であり、霊山であり、登山道も整備されていることから、非常に人気の山で、富士山なみの賑わいだったが、それも納得できるだけの魅力のあるハルラ山であった。

登山に対する、日韓のお国柄の違いも垣間見えた山行でもあった。

ニュージーランドトレッキング報告

星 一男

昨年に続き2回目のニュージーランドトレッキングを行ったので報告する。

登山期間 2015年2月6日～2月14日

山 域 NZ フィヨルドランド国立公園

メンバー (3人)

星 一男、井藤恵美子、星 紀代美

行動概要

2月 6日 セントレアから成田、オークランド経由でクイーンズタウンへ(泊)

2月 8日 車でワカティブ湖畔の街・グレイノーキーでマウントアルフレッドの登山。

2月10日 フィヨルドランド国立公園

NZ山岳会の小屋がある登山口から、U字峡にはいる。ヒラリー卿がエヴェレスト登頂前にゲレンデとしたマウントタルボットの裾を巻いて山上湖(ブラックレイク)からの滝を横目に一枚岩を登る。ゲートルドサ



マウントタルボット

ドルからミルフォードサウンドが望めた。マウントタルボットの上には万年雪が輝いていた。

2月11日 グレートウォークの一つケプラー

トラックへへりで上がり、ラスクモア山登頂。テアナウ湖を望むトレイルから、針葉樹の原生林を下り、ボートで湖を渡りテアナウに戻る。

2月12日 ミルフォードサウンドへ

船上からの景色と日本食ランチを楽しむ。

2月13日 テアナウからクイーンズタウンに

移動し、オークランドへ

2月14日 セントレア着、解散

山行を終えて

今回も幸運なことに行動中は全て好天に恵まれた。6時間から8時間程度のハイキングを主に行い、また、固有の植物を観察できたことも良かった。

追悼 高木 泰夫 先生

西山秀夫

1月23日。JACのデジタルメディア委員会からの一斉メールを開くと、高木泰夫先生が死去されたとの訃報であった。思わずえっ、と声をもらしてしまった。今年のお年賀の返信がないのもしや病臥かな、と思っていた矢先のことであった。死因は肺がんとのこと。葬儀場で山岳会関係者に聞くと以前から入院を繰り返しておられたようだ。享年85歳だった。

高木先生とは『新日本山岳誌』の編纂を通じて17年くらいの交流になる。とはいえ2005年のJAC100周年記念に上梓すれば、その後はお年賀だけの交流に過ぎなかった。今年はJACの110周年というので改訂版を出す準備をしている。東海支部でも分担の90座分の原稿を見直す作業に入っていたから、高木先生とのご縁を感じずにはいられなかった。

山行は一度もご一緒する機会は無かったが、氏の著作のガイドを読んで山に行けば案外、同行二人とはいえる。どちらかと言えば漢詩を書かれるだけに文章は硬かった。高校教師から校長の地位まで昇られて職業人生を全うされた。大好きな山三昧で終わり、大往生といえるだろう。

山の方も、足元の奥美濃の山々に足跡を残された。それらは山葵会編『奥美濃』（私家版）、『ぎふ百山』（岐阜日々新聞社）、『奥美濃—やぶ山登山のすすめ』（ナカニシヤ出版）等に結実された。なんといっても傑作は今西錦司の遺志であった高頭式編『日本山嶽志』の改訂版を出すことに注力された。JAC内の反対を押し切り、ついに2005年のJAC100周年記念出版に間に合った。その緻密で粘着質な編纂ぶりは上梓直前に腰痛に見舞われたことで推し量ることができよう。私も病院までお

見舞いに行ったことを思い出す。

訃報には1月23日の夜に御通夜、1月24日に告別式とあった。久々に穏やかな冬晴れの24日、名古屋を昼前に発って、弥富ICから掛斐川左岸の堤防道路を北進した。前方には雪を冠る奥美濃の山々が見渡せた。御嶽山などの高峰も見えたが、何といっても南宮山の右手に小津三山の特徴ある風姿が素晴らしかった。やぶ山だった三山も今は道が開けたと言う。先生はやぶ山に登ることで原始的登山の意義を説かれた。私もその信徒の一人である。今はただ、静かに山へ帰ってゆかれるのを送りたいと思う。

雪冠る小津三山にかえるべし 拙作

第15回東海岳人写真展開催のお知らせ

次回写真展の開催期日・場所が決まりました。

多数のご応募をお願いします。

☆ 展示期間：2016年3月

☆ 展示会場：名古屋市民ギャラリー栄

☆ 作品募集：2015年11月～1月



第14回（2014年）の写真展

委員会報告

【青年部】

八ヶ岳 冬合宿



雪山登山合宿と言う事で青年部と東海学生連盟の合同で行った。

2月5日(木)赤岳鉦泉	(学)3名
2月6日(金)硫黄岳	(学)3名
硫黄岳～赤岳	(青)1名
2月7日(土)阿弥陀北稜	(青)4名(学)4名
赤岳鉦泉	(青)5名
2月8日(日)日ノ岳稜	(青)2名(学)1名
赤岳	(青)4名(学)2名
2月9日(月)大同心大滝	(青)1名(学)3名
2月9日(火)赤岳	(青)1名(学)3名

今回の合宿は訓練以外の雪山登山が初めてのメンバーや雪山バリエーションルートが初めてと言うメンバーも参加し各々が課題とする目標を決め八ヶ岳に向かった。

青年部が合流した2月7日は天気が良く高橋副支部長に引率して頂き八ヶ岳の入門ルートを満喫したようだ。

2月8日の日曜日は午前中の早いうちから天候が崩れ荒れた天候と成った為、ルート変更や途中敗退など成果は上げられなかったが、冬山の厳しさを知るには良い経験が出来たであろうと思う。

記：青年部 梶浦昌巳

【登山教室委員会】

4月から新年度の講座が始まります！

各講座とも現在募集中。

前期(4月～9月)登山教室現地学習山行

中日文化センター(水曜日)

4月15日	鈴鹿：入道ヶ岳
5月20日	鈴鹿：御池岳
6月17日	南信：大川入山
7月15日	野坂山地：岩籠山
8月19日	八ヶ岳：編笠山
9月16日	東濃：恵那山

朝日カルチャーセンター(日曜日)

4月19日	伊那山地：陣馬形山
5月17日	養老山地：笙ヶ岳
6月14日	南信：南沢山・横川岳
7月12日	諏訪：守屋山
8月9日	南ア前衛：尾高山・御池山
9月13日	東濃：恵那山

NHK文化センター(土曜日)

4月18日	鈴鹿：ブナ清水～国見岳
5月23日	伊吹山地：伊吹山
6月13日	奥美濃：大日ヶ岳
7月18日	南ア前衛：尾高山
8月22日	北ア：乗鞍岳
9月26日	木曾：南木曾岳

山ガール 山ボーイ(日曜日)

4月19日	鈴鹿：竜ヶ岳
5月17日	鈴鹿：ブナ清水～青岳
6月21日	布引山地：経ヶ岳
7月12日	飛騨中央：築谷山
8月23日	南信：富士見台～南沢山
9月13日	奥美濃：大日ヶ岳

●中日登山教室山行参加者募集

中日登山教室では、バスの座席に余裕のある時には、支部員・支部友会員の方の参加を募集しています。ご希望の方は、会員番号、氏名、性別、生年月日(年齢)、電話番号、携帯番号、加入保険、メールアドレスを記入して、下記宛メールで申し込んで登録してください。

申込先：鈴木 慎吾

携帯電話 090-3458-9973

メール willkun@sc.starcat.ne.jp

登山教室委員長 鈴木慎吾

会 務 報 告

【2014年12月常務委員会】

日時：12月24日(水)19時00分～21時20分

1. 夏山フェスタ：中部経済新聞社恒成氏より来年6月に開催予定の第3回夏山フェスタの概要並びに準備状況の説明と同時に、昨年と同様夏山フェスタの運営に対する東海支部の協力依頼があった。

2. 韓国人登山者に対する対応：村越支部員より、資料配布の上JAC東海支部として何らかの形で韓国人登山者に対する対応が出来ないかの問い合わせがあったが、常務委員会としてはJACとして対応することは難しいとの意見表明がされた。

3. 支部長挨拶(小川)：配布された資料をもとに12月6日開催された支部長会議の報告があった。

①登山計画書：先回の常務委員会にて、支部主催の山行の登山計画書提出要請には対応できかねる旨支部長から本部に伝えてもらう事になっていたが、もう少し他支部の対応を見たいとのことで東海支部の意向は未だ本部に伝達されていない旨報告があった。

②若手会員増強：本部において今後、会員増強活動の一環として、会員制度の見直しの検討が始まる。その中において若手会員の増強も大きな課題であり、その検討の場には、会員増強に熱心な支部の支部長も参加できるよう強く要望し、了解を得られている。

それとは別に東海支部においては青年部、東海ユースから支部員への39歳までの転籍希望者には、本部から支部活性化活動支援の為新規入会者数に応じて支給されている助成金を活用し、日本山岳会入会金を東海支部が負担する形で援助する方向で検討したい旨提案があった。近日中に支部長・副支部長会議にて具体的内容の検討をし、常務委員会に正式提案をすることとなった。

③平成27年度全国支部懇談会：2015年4月11～12日四国支部主催で開催予定の支部懇談会に、東海支部からも出来るだけ多くの方が参加して欲しい旨依頼。

4. 委員会報告

①会計(市川)：登山教室委員会のテキスト増刷費用を支部会計より支払う予定である旨報告。本部への会計報告用資料の準備をお願いしたい。

②支部友委員会(酒井)：配布された12月度議事録に基づき、11・12月の山行及び12月10日開催した支部友ミーティング(忘年会)につき報告。H27年度の支部友山行・支部友ミーティングの計画につき説明、支部友山行への支部員の参加は山行締切後に空きがある時のみ受け付けることとした旨報告。

③山行委員会(石田)：以下報告

1)3月後半にリーダー会議開催予定。

2)H26度のリーダーにH27年度も引き続きお願いすると同時に、新しく2名がリーダーに加わる予定。

3)レベルアップ山行を年6回計画する予定。

4)最近支部友から支部員に転籍した人を対象にアンケートを実施の予定(対象は約100名)

5)定例山行一来年度は参加者が少なくとも開催する予定である旨報告。

6)ホームページの閲覧用パスワードの再周知についても検討。

④亀の会(加藤)：以下報告

1)山行実施状況-12月の定例山行は雪の為中止とした。本年は、計画した12回の月例山行のうち、5回が天候不順の為中止となった。

2)山田弘氏が厚生労働大臣から表彰された旨報告。当表彰については東海支部新年会にて披露することとなった。

3)談話室：メールリンクでの「談話室」は現在44名が参加してスタートした。談話室の趣旨、入会要領は1月発行の支部報第140号に記載されるので、見て欲しい旨案内。

⑤猿投の森づくりの会(和田)：配布された定例報告をもとに活動報告。森の会員名簿が選挙活動に流用されたことが判明したので、同様のことが起こらないよう注意を喚起した旨報告。

⑥東海YOUTH(山田)：配布された12月活動報告書をもとに会員動向、山行報告並びに山行計画の説明あり。本年度末に、支部員への転籍をするか、退会するか決断を迫られている10名については支部員への転籍の可能性のある旨報告。

⑦支部報編集委員会(星)：No.140支部報は12月26日に発送予定である旨報告。

⑧登山教室委員会(鈴木)：配布された資料に基づき、11月並びに12月の山行につき報告。ワークシステムバス代値上げについてワークシステムと折衝の結果、支部山行などについ

ては1月からの値上げを認めるが、登山教室主催の山行については来年4月から値上げを認めることで決着がついた。山行バス代については本年度分既に22万円の赤字となっており(山ガール講座などを中心として)、手持資金が3万円と底をついてきているので、10万円の運転資金をお願いしたい旨要請 ー 了承。

来年度も同様の赤字が見込まれるので、支部へ納入出来る金額が減るので了承しておいてほしい旨発言あり。

⑨インド・ヒマラヤ編集・出版委員会(星)：12月19日本部から神長氏を迎えルームにて打ち合わせ会を行い、意見交換を行った。その結果、写真が無い山については‘スケッチ’で代用することを考えていたが、全部写真を掲載(インターネットにて取得できる写真も活用)することとした。また本の大きさは当初A5版を考えていたがB5版に変更するかも知れないと報告。今回の内容について1月16日本部110周年委員会にて報告。また沖氏より自著の本2冊の寄贈を受けた旨報告。

⑩自然保護委員会(山田)：南川委員長体調不良により欠席の為、12月度の議事録のみ配布された。

⑪ボランティア委員会：以下報告

知的障がい者支援登山は26年度は雪で中止になったが27年度は4月25、26日の予定で検討している。

⑫遭難対策委員会(代理山田)：先月報告した東海ユースで発生した怪我の件について詳細報告。11月24日小秀山1,600m地点で濡れた木の根に乗ってすべり左足腓骨骨折。その日すぐに医者に行かなかった点を反省。山岳保険には入っている。加藤委員より、携帯電話による山行報告の状況を遭難対策白書として報告して欲しい旨要請。野呂委員長欠席の為、柴田副支部長より、9月約20件、10月約20件の報告があった旨報告。

⑬写真展委員会(井上)：12月4日実行委員会開催、委員11人全員が役割分担することとした旨報告。また月一回のペースで撮影山行を計画していきたい旨報告。

⑭森の音楽祭(毛利)：来年は送迎バス代の大幅値上げが避けられない情勢であることから、今年並みに出費を抑えるために何をすべきか検討中である旨報告(DMの数を抑える、楽団員の送迎を大型バス1台とマイクロバス2台からマイクロバス3台に変更するなど)。

⑮総務委員会(佐野)：

1)新年会ー1月17日、谷口けい氏を講師に招き開催する旨報告。

2)支部ルーム利用要領ー利用要領の抜粋をルームに掲示する予定である旨報告。

3)次回1月28日開催(第4水曜日)

出席者：箕浦、小川、柴田、山田、佐野、和田、市川、石田、酒井、鈴木、加藤、星、前田、井上、毛利

欠席：尾上、野呂、中世古、高橋、南川、梶浦

【2015年1月常務委員会】

日時：1月28日(水)19時00分～21時30分

1. 支部長挨拶(小川)：白馬において山スキー中に発生した支部員の遭難について、概略の説明があった。遭難したのは東海支部所属の会員番号14538池田隼人氏と他2人で全員早稲田山岳部OBで日本山岳会会員。遭難事故は1月17日五竜の村尾根付近で発生した模様。ヘリを使つての搜索及び地上からの搜索も行われたが、未だに行方不明となった3名の発見に至っていない。池田氏が東海支部の支部会員であると同時に同好会アルパインクラブのメンバーでもあることから、山田副支部長および大島支部員が1月19日～21日現地に赴き搜索活動に加わると同時に1月24・25日には高橋副支部長・野呂遭難対策部長が青年部及び学生の有志を連れ現地に赴いた。については、山田副支部長及び高橋副支部長より詳しい報告をして頂くこととしたい旨報告。

2. 委員会報告

①岳連(市川)：岳連ニュースの内容説明1)冬山入山状況(JAC東海支部関係者は3隊が入山とのこと)、2)去年11月開催された望月将悟講演会、3)3月7日猿投山で開催予定の愛知山岳トレランの申し込み状況(すでに60名の定員に達しているとのこと)などについて。

②遭難経過報告(山田、高橋)：支部長から概略報告があった遭難事故の搜索活動につき、山田副支部長と高橋副支部長より、配布された経過報告書に基づき詳細の説明がなされた。遭難事故にたいする搜索隊派遣費用についてー搜索隊派遣に伴う費用を東海支部遭難対策費から出費することを具体化するにあたって、東海支部の費用負担の基準作りを行う事になった。今回の事故を踏まえ、携帯電話による登山届をより徹底させる為、支部ガイドにも登山

届用携帯番号を印刷することとした。

③支部友委員会（酒井）：1月の山行実施状況および2月の山行計画を説明。2月10日開催予定の関西支部長重廣恒夫氏による「日本百名山を登る楽しみ方」と題した講演会には支部員も参加できるので多数の参加を待っている旨、紹介があった。

④山行委員会（石田）：配布された議事録を基にH27年度の支部山行の進め方、リーダー委嘱状況およびアンケート実施につき説明があった。

⑤亀の会（加藤）：1月の山行は天候悪く中止とした旨報告。

⑥猿投の森づくりの会（和田）：配布された定例報告をもとに活動報告。全国森づくり連絡協議会が名古屋地区にて4月18日・19日開催予定。については東海支部が主催する必要があるため、総務委員会にお手伝いをお願いしたい旨要請あり。

⑦東海 YOUTH(山田)：配布された1月活動報告書をもとに会員動向、山行報告並びに山行計画の説明あり。

⑧支部報編集委員会（星）：配布された資料を基に4月発行予定の支部報No. 141の内容説明。

⑨インド・ヒマラヤ出版委員会（星）：配布された資料を基に準備の進捗状況、内容などにつき説明。

⑩青年部（梶浦）：配布された1月例会議事録を基に山行報告並びに山行計画の説明。

⑪若年層の入会希望者に対する入会金免除制度の導入について（高橋）：配布された資料に基づき若年層が日本山岳会東海支部に入会しやすくするため、26歳から40歳までの入会希望者には入会金を免除することを提案。当提案に対し、常務委員会は、入会条件のハードルを出来るだけ下げ、該当する年代の入会希望者には入会金を免除することを承認。運用にあたっては、本部から支部に還元されてくる新規入会者の入会金の一部（4000円）を活用することとする。

⑫登山教室委員会（鈴木）：配布された資料に基づき、12月並びに1月の山行及び各教室の動向につき報告。山ガール講座受講者の山行バス代の赤字を本年度も東海支部で補てん出来ないか（具体的には東海支部会計に繰り入れている登山教室収入の一部を赤字補てんに使用）一承認。

但し一部委員から、山行の一部を現地集合にす

るなどの方策により赤字幅を出来るだけ少なくする努力をして欲しい旨要請が出された一要検討。

⑬ボランティア委員会（前田）：配布された報告書に基づき、春のブラインド登山、SON愛知支援登山および全国支援登山情報交換を説明。

⑭夏山フェスタ（毛利）：6月20日・21日の日程で開催の予定で、4月発行の支部報に内容を掲載する予定である。については、登山教室委員会および青年部を中心に応援スタッフの手配をお願いしたい旨要請。

⑮森の音楽祭（毛利）：今年も10月24日に開催を予定しており、これから準備に入るが瀬戸市の方からは既に共催の内諾が入り、雨天用会場の確保、広報での広報活動の協力も得られそうな状況になっている旨報告。

⑯支部長及び副支部長の担当する委員会：配布された資料の担当委員会名欄に森の音楽祭が漏れていたため、追加することとなった。但し誰を担当役員にするかは後日決定の上、修正。

⑰総務委員会（佐野）：3月28・29日に「全国山の日協議会」主催で「山の日」関連のイベントが東京で開催の予定である旨案内。但し詳細は今のところ不明。

出席者：箕浦、小川、柴田、山田、佐野、野呂、中世古、高橋、和田、市川、石田、酒井、南川、梶浦、鈴木、加藤、星、前田、井上、毛利
欠席：尾上

総務委員会 毛利邦男 記

ル ー ム 日 誌

— 1 2 月 —

- 1日（月）支部友委員会
- 2日（火）県岳連
- 3日（水）青年部/TNCC（同好会）
- 4日（木）写真展委員会
- 5日（金）古道塩の道
- 8日（月）登山教室委員会
- 10日（水）支部友ミティング（忘年会）
- 11日（木）自然保護委員会
- 15日（月）図書委員会／支部報編集会議
- 16日（火）ボランティア委員会
- 17日（水）山行委員会
- 18日（木）東海学生連盟／総務委員会
- 19日（金）インド・ヒマラヤ編集会議
- 24日（水）常務委員会
- 26日（金）支部報発送作業

1月

- 6日(火) 県岳連
- 7日(水) 青年部/TNCC
- 8日(木) 自然保護委員会
- 9日(金) 写真展委員会
- 13日(火) 登山教室委員会
- 14日(水) 支部友委員会
- 15日(木) 東海学生連盟
- 17日(土) 支部新年会
- 19日(月) 図書委員会
- 20日(火) ボランティア委員会
- 21日(水) 山行委員会/総務委員会
- 27日(火) 猿投の森運営委員会
- 28日(水) 常務委員会
- 30日(月) イトヒマヤ編集会議
- 31日(火) 東海ユース

2月

- 2日(月) 支部友委員会
- 3日(火) 県岳連
- 4日(水) 青年部/TNCC
- 5日(木) 写真展委員会
- 6日(金) 古道塩の道
- 9日(月) 登山教室委員会
- 10日(火) 支部友ミーティング・オープン講演会
- 12日(水) 自然保護委員会
- 16日(月) 図書委員会
- 17日(火) ボランティア委員会
- 18日(水) 山行委員会/総務委員会
- 19日(木) 東海学生連盟
- 20日(金) イトヒマヤ編集会議
- 21日(土) 東海ユース企画
- 23日(月) 山行ミーティング
- 24日(火) 猿投の森運営委員会
- 25日(水) 常務委員会

「山岳救助の使命感胸に」支部員の小古さんの紹介記事

ゆうかんさん

山岳救助の使命感胸に



三重県警四日市西署地域課の小古真也さん(仮名)は山岳遭難救助隊に配属されて八年間、自身も含め隊員の救助技術を向上させようと取り組んできた。「自分たちも安全に生きて帰る、救助の前提です」と話す。

配属当初、御在所岳などで滑落者の救助があるたび、ロープを着けずに崖下で作業する同僚が心配だった。ほかの隊員にも呼び掛けて地元山岳会の登山に同行するようになり、危険箇

所や登山具の使い方を確認してきた。山岳会の救助訓練への参加や、署での講習会の開催も提案し、現在も続いている。「救助に携わる人、全ての協力があつて今の形がある」と感謝の気持ちを忘れない。

非番の日を利用して山岳事故の多い他県警の講習会にも参加し、新しい救助法などを隊員たちに伝える。

「事故に備えて、やるべきことはなくならぬ」と使命感を抱いている。

中日新聞 2月14日夕刊

会員異動

- 入会：
- 尾関 正吉 (15657)
 - 榊 将美 (15664)
 - 金谷 正起 (15665)
 - 大塚 正数 (15673)
 - 蟹井 れい子 (15675)
- 退会：
- 岡田 洋子 (15059)
 - 吉野 勝夫 (13044)

東海支部俳壇

西山秀夫

敦賀市のシンボル

野坂岳高みに残る雪多きは

春雲しゅんうんに隠されてゐる野坂岳

庭園の彼方に聳ゆ班雪山はだれ

春の池水面に跳ねて波紋かな

水戸天狗党は尊王攘夷の大義を掲げて、八百余名が大砲など持ち臨戦態勢で上京。1864年、水戸市から48日間をかけて清内路峠、蠅帽子峠をも越えて越前を経由して大雪の敦賀に着くも幕府方に降伏。1865年3月、来迎寺(らいこうじ)の処刑場で353名が斬首された。2年後の1867年にも武田耕雲斎等墓と印刷され人々の脳裏に永遠に刻まれた。夜明け前の日本を思い、命をかけたロングトレイルだった。

春浅し水戸な忘れそ烈士塚

水戸烈士の篤い思いを大切に
梅の名所水戸市からの猷木の梅が境内に
植えられている。
日本を見守りたまへ水戸の梅

INFORMATION

【平成 27 年度支部総会、懇親会のお知らせ】

支部総会を下記日時に開催します。支部員皆様の参加を賜りますようお願いいたします。

記

期 日：平成 27 年 5 月 16 日（土）

時 間：支部総会 午後 5 時～6 時

懇親会 総会終了後

場 所：支部総会 下前津高砂殿 4F

懇親会 支部ルーム

会 費：懇親会参加者 2,500 円程度

*同封した出欠席および委任状の返信用はがきに記入の上、速やかにご返送下さい。

総務委員会 佐野忠則

【写真展実行委員会からのお知らせ】

今年も各地で撮影会を開催します。

① 緑萌える上高地撮影会（5 月～7 月）

日 時：5 月 25（月）、26（火） 1 泊

交通手段：公共交通機関（人数により変更あり）

撮影対象：朝、夕中心に新緑、山野草など、感動したもの何でも OK。二輪草に会えるかも。

撮影場所：JAC・山岳研究所を中心にした行動可能な範囲。

宿 泊：JAC・山岳研究所予定（原則として

食事は自炊、但しご飯、味噌汁は提供あり）。

世話人：写真展実行委員・今田英司（撮影指導者ではありません）。

申込先：今田英司 電話 0594-31-1756（PM7 時以降 受付）。

締 切：4 月 30 日（詳細は後日、参加者に連絡します）。

② 七島ハ島湿原（霧が峰）

日 時：6 月 20 日（土） 日帰り

交通手段：自家用車

撮影対象：七島ハ島湿原の自然

締 切：6 月 10 日（水）

③ 山（未定）

日時：7 月 12 日（日） 日帰り

交通手段：自家用車

撮影対象：ニッコウキスゲなど

締 切：7 月 2 日（木）

6 月・7 月の申込先は井上寛之

090-6590-6669、

hinoue@sb.starcat.ne.jp または、

写真展実行委員までご連絡ください。

写真展実行委員会 井上寛之

【第 3 回夏山フェスタ開催のお知らせ】

第 3 回夏山フェスタが下記要領にて開催されます。

東海支部も全面的にバックアップしています。

日時：6 月 20 日（土）～21 日（日）

場所：名古屋駅前 ウィンク愛知 8F

主催：夏山フェスタ実行委員会

事務局：中部経済新聞社 事業部

イベントの予定：

・講演/フォーラム

・安全登山や山岳写真などの各種セミナー

・山小屋・山岳関連団体・自治体による相談コーナーや新商品の PR・展示・販売など

詳細は、別紙・添チラシをご覧ください。支部以外にも PR をお願いします。

夏山フェスタ実行委員会 毛利邦男

【ボランティア委員会からのお知らせ】

○第 15 回 SON 愛知の支援登山

日時：4 月 25 日（土）～26 日（日）

場所：5 日 朝明茶屋 26 日はアスリートとの山行をブナ清水～青岳(1102m)で予定します。

○第 12 回ブラインド登山

日時：5 月 10 日（日）瑞浪市 屏風山(794.1m)

を予定しています

問合せ先： ボランティア委員まで

ボランティア委員会 前田隆久

編集後記

恒例のボランティア登山、夏山フェスタ、写真展など、多くの事業計画が今年も目白押しである。さらに本部の110周年記念事業ではインド・ヒマラヤの出版を担当する。

このように支部の活動は活発である一方、山での遭難の報告も記事として掲載した。登山に向かう場合は、安全を確保する装備とともに登山計画書の作成と関係者への連絡を必ずお願いしたい。

星 一男

海外トレッキングのパイオニア!



“山仲間でオリジナルツアーを企画しませんか?”
説明会にお伺いします。お気軽にご相談下さい

名古屋 052-581-3211
〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-23-2 (第3千福ビル3階) www.alpine-tour.com



ハイキングから本格的な高峰登山までお気軽にお問い合わせ下さい。
観光庁長官登録旅行業第1167号 / (社) 日本旅行業協会正会員

株式会社アトラストレック

名古屋サービスデスク TEL: 052-788-2422
(東京本社転送電話)

【東京本社】〒180-0008 東京都新宿区三栄町25番地 三栄ハウス202
TEL: 03-3341-0030 FAX: 03-3341-9200 E-Mail: info@atlastrek.co.jp
ホームページ <http://www.atlastrek.co.jp/>

SINCE 1975
mont-bell

ウェア・ギアに
遊び心も揃えて
お待ちしております!

アウトドア用品は、
機能的なアイテムが豊富に揃う
「モンベルストア」へ。



- 名古屋店 **Outlet** | 愛知県名古屋市中区栄3-18-1 ナディアパークロフト 6階
- 長久手店 | 愛知県長久手市片平1-901
- 名古屋みなと店 **Outlet** | 愛知県名古屋市港区品川町2-1-6 イオンモール名古屋みなと 3階
- 各務原店 | 岐阜県各務原市那加堂場町3-8 イオンモール各務原 2階
- 長島店 **Outlet** | 三重県桑名市長島町浦安368 三井アウトレットパークジャズドリーム長島 2階
- 鈴鹿店 | 三重県鈴鹿市庄野羽山4-1-2 イオンモール鈴鹿 1階
- 新静岡店 | 静岡県静岡市葵区鷹匠1丁目1-1 新静岡セノバ 4階

Outlet アイコンのある店舗では、ファクトリーアウトレット商品も取り扱っています。

モンベル・カスタマー・サービス
☎0088-22-0031 / TEL.06-6536-5740 www.montbell.jp
※フリーコールは携帯・IP電話からご利用いただけません。

公官庁の許認可申請・権利義務・事実証明の書類作成

西山行政書士事務所

〒460-0002
名古屋市中区丸の内3丁目21-21丸の内東桜ビル1004号
TEL : 052-961-6506
FAX : 052-961-6507
URL : <http://www.nygs-office.com/>
facebook : <http://www.facebook.com/nygs.office>

企画・デザイン・印刷



株式会社 浅井隆文社

〒453-0801 名古屋市中村区太閤四丁目8番3号
TEL (052) 451-6656 FAX (052) 451-6657
E-mail : ta@asai-rbs.co.jp

◆◆◆◆◆ OMC ◆◆◆◆◆

住いのコンサルタント

(有) 富士見企画

〒460-0014
名古屋市中区富士見町8番8号

◆◆◆◆◆



一般社団法人 日本自動車運行管理協会
一般社団法人 中部地区自動車管理業協会

- ・一般貸切旅客事業
- ・車両運行管理事業
- ・愛知県知事登録旅行業
- ・労働者派遣業
- ・ビル清掃管理事業
- ・介護支援事業

〒465-0021 名古屋市長東区猪子石3丁目113番地
TEL 052 (779) 8777(代) FAX 052 (779) 0031
<http://www.work-system.co.jp/>